

1.機関内の責任体系の明確化

1-1 (継続)	今年度の実施事項	責任体系を明確化し、研修などを通じて、各責任者および構成員（研究者および研究費を取り扱う事務職員等）の役割や責務を周知徹底する。
	不正等の発生要因	各責任者・構成員へ役割および責務の周知不足
	想定される問題	管理体制が機能しないことにより、不正が見過ごされる。

2.適正な運営・管理の基盤となる環境の整備

2-1 (継続)	コンプライアンス教育を定期的実施（関係者の意識の向上と浸透）	
	今年度の実施事項	コンプライアンス教育を計画に則り実施し、受講率100%を目指す。
	不正等の発生要因	研究者等の不正防止意識の低下
	想定される問題	不正という認識なしに、不正を行うリスクがある。
2-2 (継続)	啓発活動を定期的実施（関係者の意識の向上と浸透）	
	今年度の実施事項	不正事例の周知や、最高管理責任者による不正防止に係る基本方針の周知などの啓発活動を定期的実施する。
	不正等の発生要因	組織全体の不正防止意識の低下
	想定される問題	不正という認識なしに、不正を行うリスクがある。
2-3 (新規)	発注における説明責任を果たすための環境整備（職務権限と責任の理解）	
	今年度の実施事項	追承認に代え発注した場合は、発注先選択の公平性、発注金額の適正性を担保する責任があるため、登録業者及びその取り扱い物品等について周知等を行い、研究者の発注先の選択肢を広げる。
	不正等の発生要因	特定業者との緊密な状況の増加
	想定される問題	特定業者との癒着による不正を行うリスクがある。

3.研究費の適正な運営・管理活動

3-1 (新規・継続)	コンプライアンス推進責任者（学部長等）による研究費の管理・執行状況のモニタリング	
	今年度の実施事項	コンプライアンス推進責任者（学部長等）は、各学部等の構成員が適切に研究費の管理・執行をおこなっているかを定期的にモニタリングし、必要に応じて改善を指導する。特に、研究費執行が第4四半期に集中している研究者に、必要に応じてヒアリングを行い是正を促す。
	不正等の発生要因	潜在する不正のリスクを見逃す。
	想定される問題	不正の前兆を検知することができない。
3-2 (継続)	KOBUY導入に伴う立替払い状況の検証	
	今年度の実施事項	立替払い発生件数と立替払い理由を検証する。
	不正等の発生要因	支払に関与することにより、不正を行う機会が発生する。
	想定される問題	領収書の改ざん等による架空請求、再発行した領収書による二重請求など
3-3 (継続)	検収システムの検証	
	今年度の実施事項	検収センターの運用状況の検証
	不正等の発生要因	形式的な検収が行われる。
	想定される問題	納品検収時、納品物品の反復使用による架空請求など

		出張伺い提出手続きの強化
3-4 (新規)	今年度の実施事項	事後となる出張伺いの提出については、状況により、出張の事実確認の実施や適正な手続きの指導を行う。
	不正等の発生要因	潜在する不正のリスクを見逃す。
	想定される問題	不正の前兆を検知することができない。
		出張報告書の検証
3-5 (継続)	今年度の実施事項	出張報告書に記載すべき事項が漏れなく記載されているか確認し、状況により出張の事実確認を実施する。
	不正等の発生要因	出張の事実確認が不十分
	想定される問題	カラ出張、水増し請求や重複請求など
		出張の事実確認体制の強化
3-6 (新規)	今年度の実施事項	出張を証明する書類の提出を行う等、出張後においても客観的に出張事実確認がとれる体制の整備を検討する。
	不正等の発生要因	出張の事実確認が不十分
	想定される問題	カラ出張、水増し請求や重複請求など